

## FUND CENTRALIZING SYSTEM

**Publication number:** JP6295307 (A)

**Publication date:** 1994-10-21

**Inventor(s):** MADATE SHINICHI

**Applicant(s):** FUJI SOKEN MEDIA CREATE KK

**Classification:**

- international: G07D9/00; G06F19/00; G06Q20/00; G06Q40/00; G07D9/00;  
G06F19/00; G06Q20/00; G06Q40/00; (IPC1-7): G06F15/30;  
G06F15/30; G07D9/00

- **European:**

**Application number:** JP19930081888 19930408

**Priority number(s):** JP19930081888 19930408

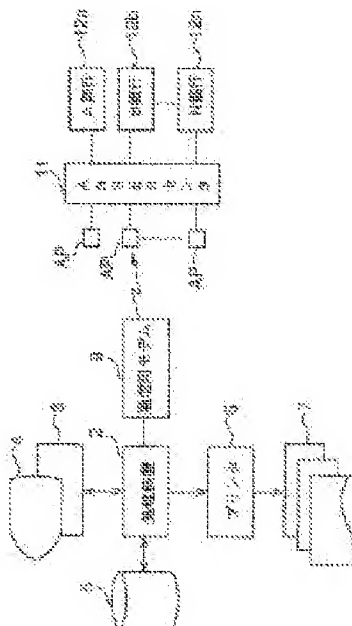
**Also published as:**

JP2604109 (B2)

## Abstract of JP 6295307 (A)

**PURPOSE:** To reduce the quantity of operator's operation and to improve processing efficiency by making it possible to process inquiry processing and fund moving processing by simple operation even when there are plural accounts to be processed.

CONSTITUTION: In a system connecting terminal equipments to an ANSER center 11 through communication lines and allowing subscribed banks to receive prescribed ANSER service, an account master file for storing objective account information in each group, ANSER center connecting information, etc., and a group master file for storing a group code for selecting an objective group are previously set up in a hard disk 5.; When a processing item and a group code are inputted from a keyboard 3 to a main menu display screen, a processor 2 accesses the center 11 while referring to the stored contents of the group master file and the account master file, automatically executes processing for an objective account in the group and displays and prints out the processing result on a display device 4 and from a printer 6.



Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-295307

(43)公開日 平成6年(1994)10月21日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 15/30	3 6 0	7343-5L		
	M	7343-5L		
	B	7343-5L		
	Z	7343-5L		
G 0 7 D 9/00	4 5 1 A	8111-3E		

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 29 頁)

(21)出願番号 特願平5-81888

(22)出願日 平成5年(1993)4月8日

(71)出願人 593068982

株式会社富士総研メディアクリエイト  
東京都港区芝五丁目20番14号

(72)発明者 間館 伸一

東京都港区芝五丁目20番14号 株式会社富  
士総研メディアクリエイト内

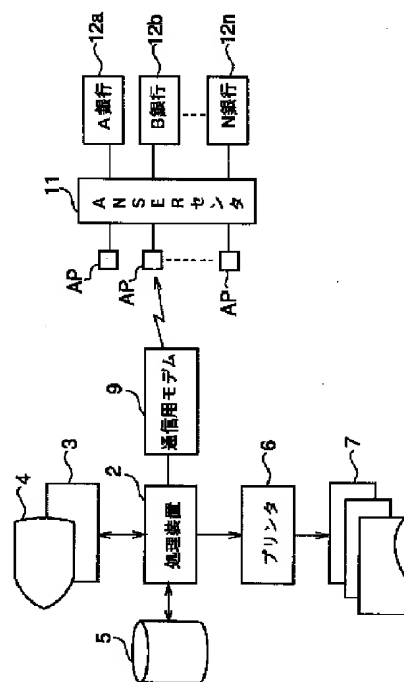
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦

(54)【発明の名称】 資金集中システム

(57)【要約】

【目的】 対象口座が複数ある場合でも、簡単な操作で照会処理、資金移動処理を行なうことができ、オペレータの作業量を減少して処理効率を向上する。

【構成】 端末装置1より通信回線10を介してANSERセンタ11に接続し、加入銀行に対する所定のANSERサービスを受けるシステムにおいて、ハードディスク5に、予めグループ別に対象口座情報、ANSERセンタ接続情報等を記憶する口座マスターファイル及び対象グループを選択するためのグループコードを記憶するグループマスターファイルを設定する。メインメニューの表示画面でキーボード3より処理項目及びグループコードを入力すると、処理装置2はグループマスターファイル及び口座マスターファイルの記憶内容を参照してANSERセンタ11をアクセスし、グループ内の対象口座に対する処理を自動的に実施し、処理結果を表示装置4に表示すると共にプリンタ6より出力する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 端末装置より通信回線を介してANSERセンタに接続し、加入銀行に対する所定のファームバンキングのANSERサービスを受けるシステムにおいて、上記端末装置内の記憶装置に、グループ別に対象口座に関する情報及び上記ANSERセンタの接続情報が予め記憶設定される口座マスターファイルと、これらの口座マスターファイルを選択するためのグループコードが予め記憶設定されるグループマスターファイルと、入力装置より処理項目及びグループコードを入力することにより、上記グループマスターファイル及び口座マスターファイルの記憶内容を参照して上記ANSERセンタをアクセスし、グループ内の対象口座に対して順次指定項目に関する処理を自動的に実施し、処理結果を端末装置の表示装置に表示すると共に、出力装置より出力する手段とを具備したことを特徴とするサービスシステム。

【請求項2】 端末装置より通信回線を介してANSERセンタに接続し、加入銀行に対する所定のファームバンキングのANSERサービスを受けるシステムにおいて、上記端末装置内の記憶装置に、グループ別に資金集中対象口座に関する情報及び上記ANSERセンタの接続情報が予め記憶設定される口座マスターファイルと、これらの口座マスターファイルを選択するためのグループコードが予め記憶設定されるグループマスターファイルと、上記入力装置より預け替送金指示及びグループコード等の必要情報を入力することにより、上記グループマスターファイル及び口座マスターファイルの記憶内容を参照して上記ANSERセンタをアクセスし、グループ内の対象口座に対して順次預け替処理を自動的に実施し、各口座の資金を指定の口座に集中させ、その結果を端末装置の表示装置に表示すると共に、出力装置より出力する手段とを具備したことを特徴とする資金集中システム。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、パーソナルコンピュータ（パソコン）の通信機能を用いて取引銀行に対する残高照会、取引照会、資金移動等の処理を行なう資金集中システムに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、銀行によるファームバンキングのANSERサービスに加入すると、パソコンの通信機能を用いて取引銀行に対し、図24、図25のANSER型サービス提供一覧表に示すように各種の残高照会、取引照会、資金移動等を行なうことができる。このANSERサービスは、パソコンを通信回線によりANSERセンタのアクセスポイントAPに接続し、次に示すような操作により取引銀行へのアクセスを行なうものである。以下の操作例は、残高照会を行なう場合について示したものである。

【0003】 (1) パソコンのシステムを立上げる。

【0004】 (2) ANSERセンタの所定アクセスポイントAPにオンライン接続する。

【0005】 (3) 銀行コード、サービスコードを入力する。

【0006】 (4) 対象口座番号、暗証番号を入力する。

【0007】 (5) 照会情報を記憶装置（ハードディスク）に記憶する。

【0008】 (6) 対象銀行、口座等が複数ある場合は、それに応じて上記(2)、(3)、(4)の操作を繰返して実行する。上記アクセスポイントAPは、地域別に設けられるもので、アクセス可能な銀行が限られているので、最初に接続したアクセスポイントAPでは対象外となっている銀行を指定したい場合は、アクセスポイントAPを切替える必要がある。

【0009】 (7) オンラインを切断する。

【0010】 (8) オフラインに切替える。

【0011】 (9) 対象口座を指示する。

【0012】 (10) 指示口座に対する画面表示及び帳票出力を行なう。

【0013】 (11) 帳票により情報を確認する。

【0014】 また、画面表示のみで帳票出力ができないものについては、画面上で確認、あるいは必要に応じてハードコピーを出力して情報を確認する。

## 【0015】

【発明が解決しようとする課題】 上記従来のANSERサービスでは、照会処理の場合は処理毎に、銀行コード、サービスコード、支店コード、預金種目、口座番号、暗証番号を入力しなければならず、また、資金移動の場合は処理毎に、銀行コード、サービスコード、支店コード、預金種目、口座番号、暗証番号の他に、受取人番号、金額、意志確認コード、承認暗証の入力が必要であり、操作が非常に面倒であると共に、処理に時間が掛かるという問題があった。

【0016】 本発明は上記実情に鑑みてなされたもので、対象となる口座が複数ある場合でも、簡単な操作で残高照会、資金移動等の処理を行なうことができ、オペレータの作業量を減少し得ると共に、処理効率を著しく向上し得る資金集中システムを提供することを目的とする。

## 【0017】

【課題を解決するための手段】 本発明は、端末装置より通信回線を介してANSERセンタに接続し、加入銀行に対する所定のファームバンキングサービスを受けるシステムにおいて、上記端末装置内の記憶装置に、グループ別に対象口座に関する情報及びANSERセンタの接続情報が予め記憶設定される口座マスターファイルと、これらの口座マスターファイルを選択するためのグループコードが予め記憶設定されるグループマスターファイルと、入力装置より処理項目及びグループコードを入力

することにより、上記グループマスターファイル及び口座マスターファイルの記憶内容を参照して上記ANSERセンタをアクセスし、グループ内の対象口座に対して順次指定項目に関する処理を自動的に実施し、処理結果を端末装置の表示装置に表示すると共に、出力装置より出力する手段とを具備したことを特徴とする。

【0018】また、本発明は、端末装置より通信回線を介してANSERセンタに接続し、加入銀行に対する所定のファームバンキングサービスを受けるシステムにおいて、上記端末装置内の記憶装置に、グループ別に資金集中対象口座に関する情報及び上記ANSERセンタの接続情報が予め記憶設定される口座マスターファイルと、これらの口座マスターファイルを選択するためのグループコードが予め記憶設定されるグループマスターファイルと、上記入力装置より預け替送金指示及びグループコード等の必要情報を入力することにより、上記グループマスターファイル及び口座マスターファイルの記憶内容を参照して上記ANSERセンタをアクセスし、グループ内の対象口座に対して順次預け替処理を自動的に実施し、各口座の資金を指定の口座に集中させ、その結果を端末装置の表示装置に表示すると共に、出力装置より出力する手段とを具備したことを特徴とする。

【0019】

【作用】端末装置内の記憶装置に設定したグループマスターファイル及び口座マスターファイルに、予めグループコード、対象口座に関する情報、ANSERセンタの接続情報等を書込んでおく。システムを起動するとメインメニューが画面表示されるので、メインメニューの中から残高照会、預け替送金等の任意項目を指定することにより、指定項目に対する対応画面に切替わる。この対応画面でグループコード等を入力すると、このグループコードに基づいてグループマスターファイル、口座マスターファイル等が参照され、その記憶内容に従ってANSERセンタがアクセスされ、指示データと共に対象口座等のデータがANSERセンタに送られる。このANSERセンタは、端末装置からのデータに基づいて指示された処理を実行し、その結果を端末装置に出力する。端末装置は、ANSERデータに基づいて処理結果を画面表示すると共に出力装置より出力する。

【0020】端末装置は、指定されたグループ内の複数の対象口座に対する処理を順次自動的に実行する。従って、オペレータは簡単な操作で残高照会、振込・振替、資金集中等を行なうことができる。

【0021】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の一実施例を説明する。図1は本発明の一実施例に係る資金集中システムの全体構成を示すブロック図である。図1において、1は例えばパソコン等を用いた端末装置で、処理装置2を備えている。この処理装置2には、キーボード3、CRT等の表示装置4、ハードディスク5、管理資料7を

出力するプリンタ6、フロッピーディスク装置8、通信用モデム9等が接続される。上記ハードディスク5には、各種管理ファイル、口座マスターファイル、グループマスターファイル等が予め作成されるが、その詳細については後述する。

【0022】上記端末装置1は、通信用モデム9により通信回線（公衆電話回線）10を通じてANSERセンタ11のアクセスポイントAPに接続される。このアクセスポイントAPは、地域別に設けられている。上記ANSERセンタ11は、ANSERシステムに加入しているA銀行12a、B銀行12b、…、N銀行12nと接続しており、端末装置1からの指示内容に従って例えば照会系サービス、振込・振替系サービス、資金集中系サービス等の各種処理を実行し、その結果を端末装置1に送出する。

【0023】図2ないし図4は、上記端末装置1のハードディスク5に設定されるファイル例について示したものである。

【0024】照会系サービスに対しては、図2に示すようにグループマスターファイル21、複数の口座マスターファイル22を作成する。グループマスターファイル21には、グループコード、ポイント及び件数が予め書込まれる。上記グループコードは、各口座マスターファイル22に設定される複数の口座番号をグループとして指定するためのもの、ポイントは、各口座マスターファイル22の記憶アドレスを指定するためのもの、件数は、各グループに設定される口座番号の件数である。

【0025】各口座マスターファイル22には、各取引対象に対してサービスコード、銀行コードを含む口座番号、暗証番号、ANSER電話番号が予め書き込まれる。そして、各口座マスターファイル22のスタートアドレスの位置がポイントとしてグループマスターファイル21に記憶される。

【0026】振込・振替系サービスに対しては、図3に示すように振込・振替データファイル31、口座マスターファイル32を作成する。振込・振替データファイル31には、入力番号、仕向口座番号、被仕向口座番号、振込・振替金額が書込まれる。口座マスターファイル32には、仕向口座番号、暗証番号、ANSER電話番号が予め書込まれる。

【0027】資金集中系サービスに対しては、図4に示すようにグループマスターファイル41、口座マスターファイル42、資金集中データファイル43を作成する。グループマスターファイル41は、グループコード、ポイント及び件数が予め書込まれる。口座マスターファイル42には、仕向口座番号、被仕向口座番号、暗証番号、ANSER電話番号及びポイント等が予め書込まれる。この口座マスターファイル42のポイントにより、資金集中データファイル43のアドレスが指定される。この資金集中データファイル43には、仕向口座に

対する残高、固定残高、集中単位額、集中金額等が書込まれるもので、口座マスターファイル42に書込まれているポイントによりアドレスが指定される。この場合、残高はその時点における仕向口座の残高、固定残高は資金移動後に残しておく最低の残高、集中単位額は資金集中する際の送金単位金額、集中金額は残高の中から実際に送金する金額である。図4の例では、残高が「123,456円」、固定残高が「1,000円」、集中単位額が「10,000円」の場合であり、従って、集中金額は「120,000円」で、送金後の残高は「3,456円」となる。

【0028】次に上記実施例の動作を図5ないし図8のフローチャートを参照して説明する。図1に示す端末装置1を起動すると、管理ファイルの制御により、図10に示すメインメニューが表示装置4に画面表示される。このメインメニューには、残高照会、入出金明細照会、預け替送金、個別送金等に関するメニュー及びマスターメンテナンスに関するメニューが処理番号と対応させて表示される。このマスターメンテナンスは、上記ハードディスク5に設定するグループマスターファイル、口座

マスターファイル等に対する登録、訂正等を行なうためのメニューである。また、画面上の下部に設けた編集エリアには、「処理番号を入力し〔改行〕キーを押して下さい。」のメッセージが表示される。

【0029】システムを動作させるためには、上記したようにハードディスク5にグループマスターファイル、口座マスターファイル等を予め設定する。この設定を行なう場合は、上記メインメニューの表示画面で、処理番号「42・口座マスターメンテナンス」を入力する。このメンテナンス指定により、画面はサブメニューに切替わり、「登録」、「訂正」、「削除」、「照会」、「リスト」等の処理項目と、この処理項目を指定する番号「1」～「5」が表示される。登録を行なう場合は、「登録…1」を指定する。この登録指定により、図11に示すデータ入力画面に切替わり、例えば「銀行コード」、「支店コード」、「預金種目コード」、「口座番号」、「口座種別」、「残高照会」、「預け替送金」、「入出金明細」、「加入者番号」、「照会用暗証番号」、「預け替送金区分」、「FD出力区分」、「受取人番号」、「固定残高」等の入力項目を表示する。上記

入力項目に従ってデータを入力し、実行キーを操作すると、入力データがハードディスク5に登録される。

【0030】上記のようにして登録した内容は、リストとして出力でき、これにより内容を確認することができる。

【0031】上記のようにハードディスク5への所定のデータを登録した後は、図10に示したメインメニューで、所望の処理番号を入力して〔改行〕キーを押すと、処理装置2は図5に示すように入力された処理番号に応じて、例えば照会系、振込・振替系（資金移動系）、資

金集中系に対する処理を実行する。

【0032】即ち、メインメニューの表示画面で、処理番号「01・残高照会」、または「11・入出金明細照会」を入力すると、図12(a)に示すようにグループコード及び処理区分の入力画面に切替えられる。以下、処理番号「01・残高照会」を指定した場合について動作を説明する。上記入力画面でグループコードを入力し、処理区分として新規を指定すると、図6のフローチャートに従って残高照会処理が実行される。

【0033】処理装置2は、グループコード及び処理区分（新規）が入力されると（ステップA1）、図2に示したグループマスターファイル21を参照し、そのポイントにより指定される口座マスターファイル22をアクセスし、予め書込まれているANSER電話番号に従ってANSERセンタ11のアクセスポイントAPを呼出し、対象口座に対する照会を行なう（ステップA2）。例えば図2においてグループコードAが入力指定されていれば、ポイント「1」の口座マスターファイル22をアクセスし、最初の口座番号に対するANSER電話番号を読み出し、公衆電話回線を通じてANSERセンタ11のアクセスポイントAPを呼出し、対象口座番号に対する残高照会を実行する。以下、同様にして口座マスターファイル22に記憶されている口座番号について順次残高照会を行なう。また、そのとき接続しているアクセスポイントAPからアクセスできない銀行については、アクセスポイントAPを自動的に切替えて対象となる銀行をアクセスする。

【0034】そして、処理装置2は、上記の残高照会処理を一通り終了すると、図12(b)に示すように残高照会処理の状況、即ちグループコード、対象口座数、受信口座数、未受信口座数等を画面表示する（ステップA3）。このとき未受信データの有無を判断し（ステップA4）、未受信データがある場合は図17に示すエラーリストを出力すると共に、ステップA1に戻り、図12(b)に示したグループコード入力画面を表示する。この入力画面では、未受信データのあるグループコードを入力すると共に、処理区分として再照会を指定する。これにより未受信口座に対してのみ照会処理が行なわれる。この再実行により未受信口座についてのデータを受信することができる。

【0035】そして、上記ステップA4で全ての対象口座に関するデータを受信したと判断すると、図10に示すメインメニュー表示画面に戻り、残高一覧表作成、または入出金明細出力に備える。この状態で処理番号「02・残高一覧表作成」を入力すると、処理番号「02・残高一覧表作成」、または「13・入出金明細出力」を入力すると、図12(c)に示すようにグループコードの入力画面に切替えられる。この入力画面でグループコードの入力を省略した場合は、全件が処理対象となる。上記図12(c)の入力画面でグループコードを入力す

ると、上記した処理により作成されたデータが管理資料として出力される。即ち、処理番号「02・残高一覧表作成」を入力した場合は、図18に示す残高一覧表が出力され、処理番号「13・入出金明細出力」を入力した場合は、入出金明細確認リストが出力されると共に、入出金明細FDが作成される。

【0036】次に振込・振替系（資金移動系）サービスについての動作を説明する。

【0037】図10に示したメインメニューの表示画面で、処理番号「31・個別送金実行」を入力する。この入力により図7のフローチャートに示す処理が実行され、図13(a)に示す「個別送金実行」に関するサブメニュー画面に切替わり、画面上に「登録」、「訂正」、「削除」、「リスト」、「送金実行」の処理項目及びその選択番号「1」～「5」が表示される。この画面で「1」～「3」の処理を選択すると、図13(b)に示す個別送金のための入力画面が表示される。この入力画面では、個別送金No.（入力番号）が「001」から順にカウントアップして表示されると共に、「1. 払出口座コード（送金元口座）」、「2. 受取人番号、送金先口座」、「3. 送金額」の入力項目が表示される。この入力項目に従って口座情報等を入力することにより、個別送金データを作成する（ステップB1）。

【0038】そして、上記個別送金データの入力を完了した後、図13(a)に示す入力画面で「リスト…4」の項目を選択する。この項目指定により、図19に示す個別送金データリストがプリンタ6により出力される（ステップB2）。この個別送金リストに基づいて入力間違いの有無を精査し（ステップB3）、入力間違いがあればステップB1に戻ってデータの訂正、削除等を行なう。データが正しく入力されている場合は、入力された個別送金データをハードディスク5に出力して図3に示す振込・振替データファイル31に書き込む。

【0039】上記のようにして振込・振替データファイル31を作成した後、送金を実行する場合は、図13(a)の入力画面で「送金実行」の項目を選択する（ステップB4）。これにより処理装置2は、ハードディスク5に記憶されている振込・振替データファイル31及び口座マスターファイル32を参照してアクセスポイントAPを呼出し、資金移動の送信処理を実行する（ステップB5）。処理終了後、図13(c)に示すように「個別送金実行結果」を画面表示すると共に未送信データの有無をチェックし（ステップB6）、未送信データがあれば図17に示すように残高照会エラーリストと同様の個別送金エラーリストを出力してステップB4に戻る。このステップB4において、未送信データに対する資金移動処理を再度実行する。そして、全てのデータについて処理を終了すると、図20に示す個別送金結果一覧表を出力し（ステップB7）、個別送金処理を終了する。

【0040】次に預け替送金（資金集中処理）についての動作を説明する。

【0041】この預け替送金は、例えば複数の工場に分散している資金を本社に集中する場合等に用いられる。この預け替送金の概略を、例えば図9に示すように、ある会社の本社及び工場がA銀行、B銀行、C銀行に複数の口座を持っているものとし、この複数の口座の預金をA銀行の指定口座に預け替する場合について説明する。まず、A銀行では、口座Aa, Ab, Ac, Adをグループ指定して、その預金を口座Anに預け替（同行間預け替）する。B銀行では、口座Ba, Bb, Bcをグループ指定して、その預金を口座Bnに預け替する。C銀行では、口座Ca, Cbをグループ指定して、その預金を口座Cnに預け替える。その後、各銀行の指定口座An, Bn, Cnをグループ指定して、その預金を更にA銀行の指定口座Axに預け替（同行間預け替及び他行間預け替）する。

【0042】上記のように複数の口座をグループ指定して、同行間預け替処理（回収1グループ）、他行間預け替処理（回収2グループ）を行なうことにより、複数の銀行の口座をA銀行の指定口座Axに自動的に集中させることができる。なお、上記図9では、最初、各銀行毎に複数の口座を1つの口座にまとめ、その後、A銀行の指定口座に集中させた場合について示したが、その他、1度の預け替で各銀行における複数の口座を直接A銀行の指定口座に集中させるようにしても良い。

【0043】上記の預け替に際しては、次の処理を実行する。

【0044】(1) ANSWERシステムで指定グループ毎に「残高照会（現在残高）」を行ない、データを記録する。

【0045】(2) 記録されたデータをもとに預け額を自動計算し、確認リストを出力する。

【0046】(3) 預け替の補正があれば、変更データを入力して再度確認リストを出力する。

【0047】(4) 上記(2)と(3)のデータをもとに資金移動を実行する。

【0048】(5) 資金移動結果データから、「預け替一覧表」を作成する。

【0049】以下、上記預け替送金（資金集中処理）について詳細に説明する。

【0050】図10に示したメインメニューの表示画面で、まず、処理番号「21・現在（前日）残高照会」を入力する。これにより図8のフローチャートに示す処理が実行され、まず、図12(a)と同様の入力画面が表示される。この入力画面で、グループコード及び処理区分（新規）を入力すると（ステップC1）、ハードディスク5に記憶されている図4に示すグループマスターファイル41が参照され、その指定グループに対する口座マスターファイル42の内容が読出される。そして、こ

の口座マスターファイル42の記憶内容に基づいてアクセスポイントAPがアクセスされ(ステップC2)、受信結果が画面表示される(ステップC3)。この受信結果に対し、未受信データの有無がチェックされ(ステップC4)、未受信データがあればステップC1に戻る。このステップC1で、未受信データに対するグループコードを入力することにより、未受信の口座番号に対する処理が再実行される。以上の処理により未受信データがなくなると、ANSERデータより現在(前日)残高照会結果が図14に示すように表示される。この残高照会結果を確認し、確認キーを操作すると、図10のメインメニュー画面に戻る。

【0051】次に、このメインメニュー画面で、処理番号「22・預け替可能額リスト作成」を入力する。この入力指定により、図12(c)と同様のグループコード入力画面が表示される。この入力画面でグループコードを入力すると、処理装置2は、図4に示すグループマスターファイル41、口座マスターファイル42、資金集中データファイル43を参照して図21に示す預け替可能額リストを作成して出力し(ステップC5)、表示画面をメインメニューに戻す。

【0052】この預け替可能額リストにより補正の有無をチェックし(ステップC6)、補正する場合は、メインメニュー画面で、処理番号「23・預け替補正」を入力する。この補正指定により図15に示す預け替補正画面が表示される。この預け替補正画面では、「グループコード」及び「送金No.」を指定入力することにより、指定口座に関するデータ、即ち回収元口座、払出可能額、回収予定額、補正後回収額等が画面上に表示される。この画面上で例えば回収予定額等を補正すると、補正後の回収額が表示される。補正入力を終了した後、実行キーを操作することにより、図4に示す資金集中データファイル43等の記憶内容が補正される(ステップC7)。補正終了後は、メインメニュー画面に戻る。

【0053】上記の預け替補正を行なった場合は、上記した「22・預け替可能額リスト作成」を指定し、預け替可能額リストを作成して内容を再確認する。

【0054】この再確認により内容が正しければ、メインメニュー画面で処理番号「24・預け替送金実行」を入力する(ステップC8)。なお、預け替可能額リストを補正する必要がない場合は、上記預け替補正を行なうことなく、「預け替送金実行」を指示する。この実行指示により、画面は図16(a)に示す「預け替送金実行」の画面に切替わる。この画面では預け替送金を実行するグループコードを入力することにより、そのグループにおける送金件数、預け替送金額が表示される。この表示内容を確認した後、確認キーを操作することにより、図1に示す処理装置2はハードディスク5内のグループマスターファイル41、口座マスターファイル42、資金集中データファイル43等を参照してアクセス

ポイントAPをアクセスし、預け替送金データをANSERセンタ11に送信する(ステップC9)。ANSERセンタ11は、端末装置1から送られてくる預け替送金データに基づいて預け替送金を実行し、ANSERデータを端末装置1に送出する。

【0055】処理装置2は、上記ANSERデータにより預け替実行結果を図16(b)に示すように画面上に表示すると共に、未送信データの有無をチェックし(ステップC10)、送信できなかった口座については図22に示す預け替エラーリストを出力する。未送信データがあった場合は、ステップC9に戻り、送信できなかった口座について預け替送金を再度実行する。この再実行により預け替送金処理が完了すると、図10に示すメインメニュー画面に戻る。

【0056】次に、このメインメニュー画面で、処理番号「25・預け替結果一覧表作成」を入力する。これにより画面は、図16(c)に示す「預け替結果一覧表作成」の画面に切替わる。この画面で、グループコードを入力すると、処理装置2は、ANSERデータに基づいて図23に示す預け替結果一覧表を作成し、プリンタ6より出力する(ステップC11)。

【0057】上記のように複数の口座をグループ指定して、同行間預け替処理、他行間預け替処理等を行なうことにより、簡単な操作で複数の銀行の口座を指定銀行の口座に自動的に集中させることができる。また、預け替金額が自動計算されると共に、管理資料が自動的に作成されるので、計算ミスを防止できると共に、手作業を減少して操作ミスを防止することができる。

#### 【0058】

【発明の効果】以上詳記したように本発明によれば、端末装置より通信回線を介してANSERセンタに接続し、加入銀行に対する所定のANSERサービスを受けるシステムにおいて、記憶装置に、グループ別に対象口座情報、ANSERセンタ接続情報等を予め記憶する口座マスターファイル、対象グループを選択するためのグループコードを予め記憶するグループマスターファイル等を設定することにより、対象となる口座が複数ある場合でも、非常に簡単な操作で残高照会、振込・振替、資金集中等の処理を行なうことができ、オペレータの作業量を減少し得ると共に、処理効率を著しく向上することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係る資金集中システムの構成を示すブロック図。

【図2】同実施例における照会系サービスに関するグループマスターファイル及び口座マスターファイルの記憶構成を示す図。

【図3】同実施例における振込・振替系サービスに関する振込・振替データファイル及び口座マスターファイルの記憶構成を示す図。

【図4】同実施例におけるグループマスターファイル、口座マスターファイル及び資金集中データファイルの記憶構成を示す図。

【図5】同実施例における全体的な概略動作を示すフローチャート。

【図6】図5における照会系サービスの動作を示すフローチャート。

【図7】図5における振込・振替系サービスの動作を示すフローチャート。

【図8】図5における預け替送金（資金集中処理）の動作を示すフローチャート。

【図9】同実施例における資金集中処理の概念を示す図。

【図10】同実施例におけるメインメニューの画面表示例を示す図。

【図11】同実施例における口座マスターメンテナンスの画面表示例を示す図。

【図12】同実施例における残高照会時の画面展開例を示す図。

【図13】同実施例における個別送金実行時の画面展開例を示す図。

【図14】同実施例における現在（前日）残高照会結果の画面表示例を示す図。

【図15】同実施例における預け替補正時の画面表示例を示す図。

【図16】同実施例における預け替送金時の画面展開例を示す図。

【図17】同実施例における残高照会（個別送金）エラーリストの出力例を示す図。

【図18】同実施例における残高一覧表の出力例を示す図。

【図19】同実施例における個別送金データリストの出力例を示す図。

力例を示す図。

【図20】同実施例における個別送金結果一覧表の出力例を示す図。

【図21】同実施例における預け替可能額リストの出力例を示す図。

【図22】同実施例における預け替エラーリストの出力例を示す図。

【図23】同実施例における預け替結果一覧表を示す図。

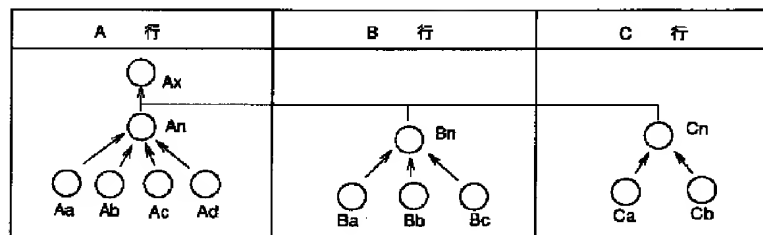
【図24】銀行別ANSER型サービス提供一覧表を示す図。

【図25】銀行別ANSER型サービス提供一覧表を示す図。

#### 【符号の説明】

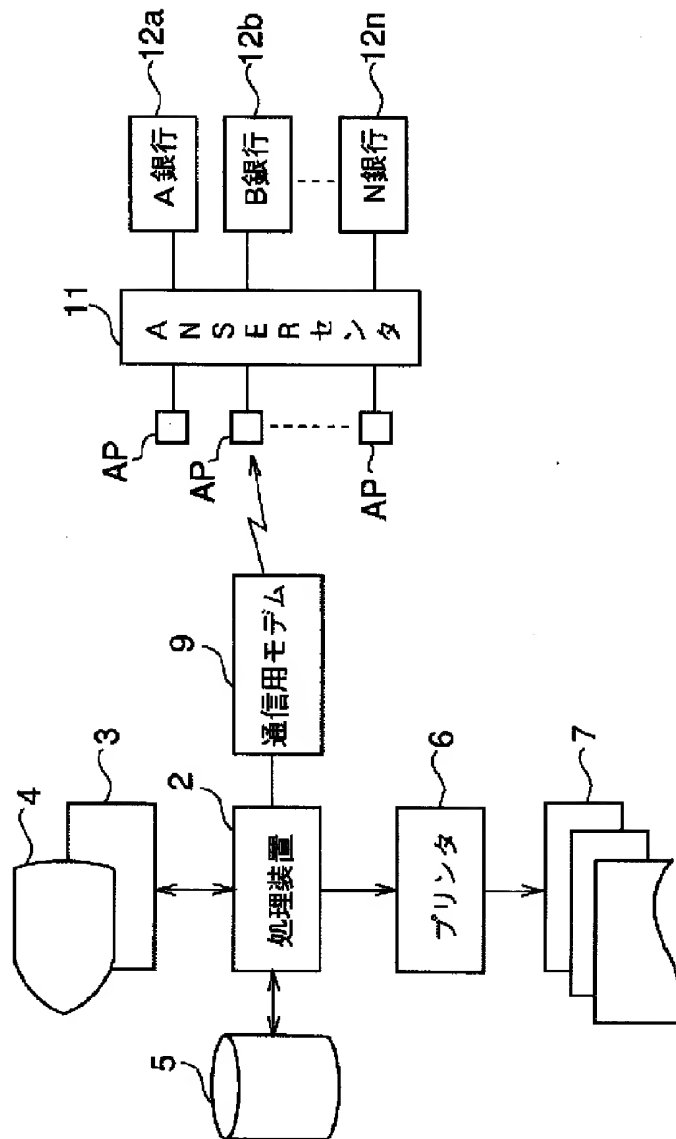
- 1 端末装置
- 2 処理装置
- 3 キーボード
- 4 表示装置
- 5 ハードディスク
- 6 プリンタ
- 7 管理資料
- 8 フロッピディスク装置
- 9 通信用モデム
- 10 通信回線（公衆電話回線）
- 11 ANSERセンタ
- 21 グループマスターファイル
- 22 口座マスターファイル
- 31 振込・振替データファイル
- 32 口座マスターファイル
- 41 グループマスターファイル
- 42 口座マスターファイル
- 43 資金集中データファイル

【図9】





【図1】



【図2】

照会系サービス

21グループマスタファイル

グループ コード	ポインタ	件数
A	1	10
B	3	8

アドレス

22口座マスタファイル

サービス コード	口座番号	暗証番号	ANSER 電話番号
11	12345	1356	5443-3223
12	11111	1111	3603-0925
12	22222	2222	
⋮	⋮	⋮	⋮

アドレス

22

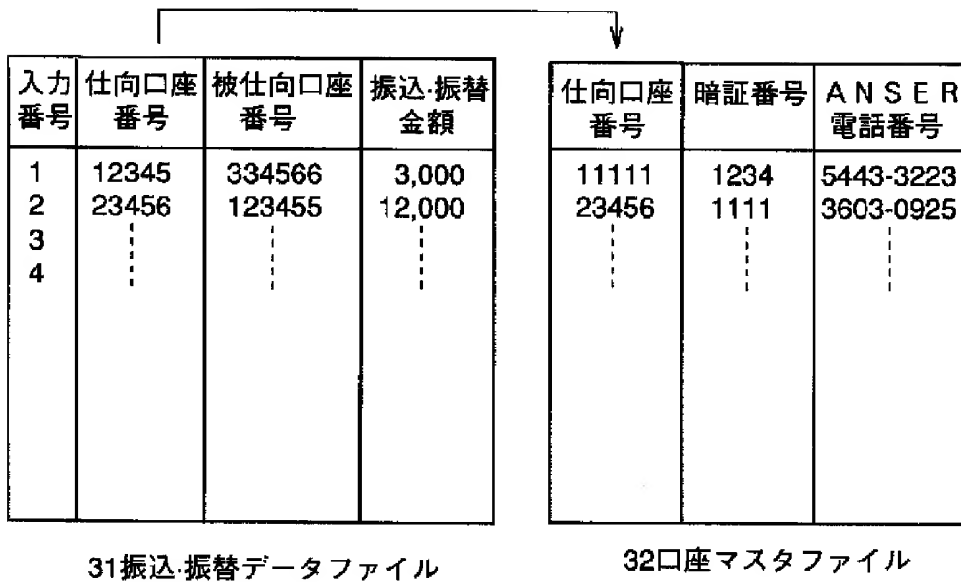
2				

アドレス

22

3				

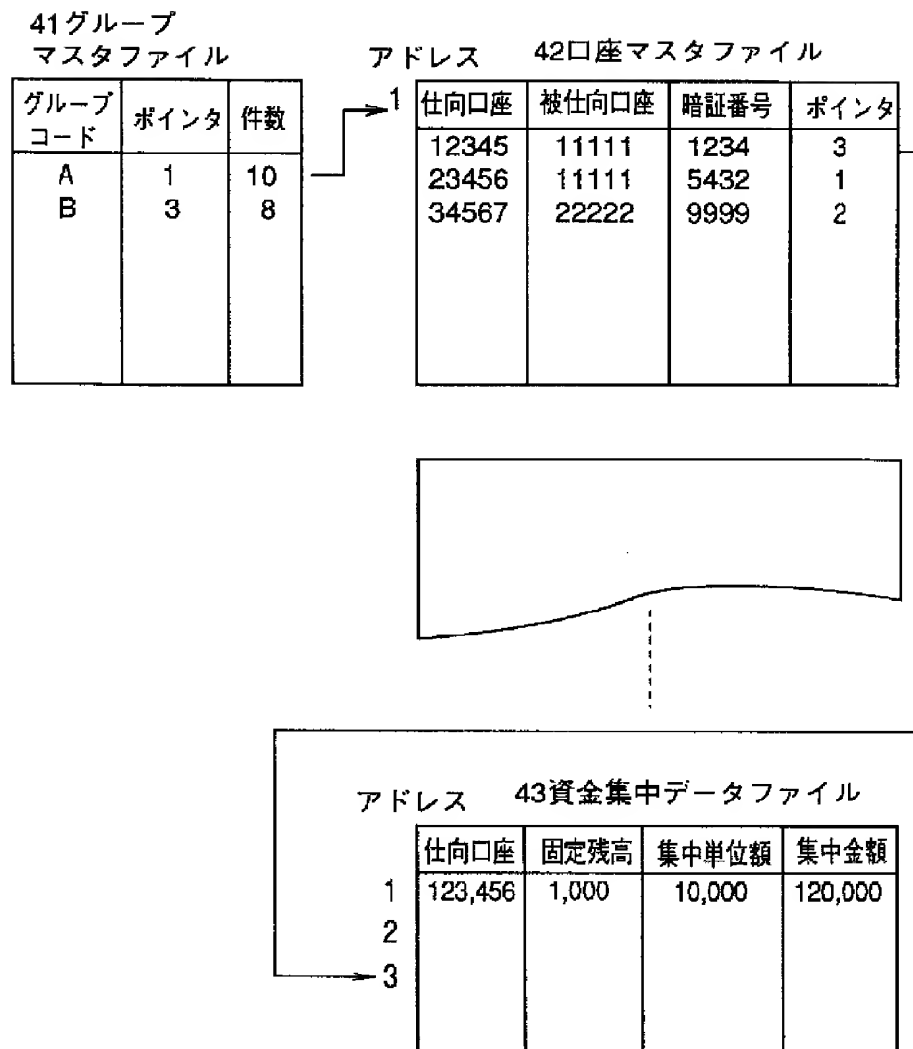
【図3】

振込・振替サービス

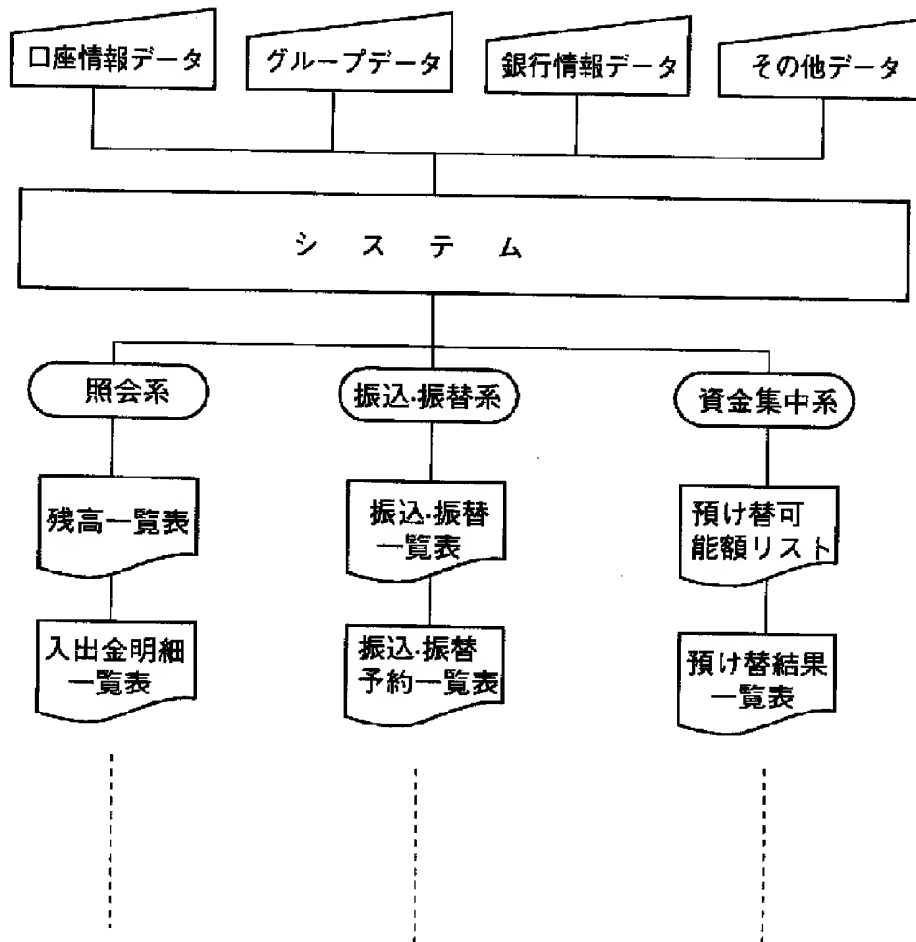
【図10】

資金集中システム		【メインメニュー】
1993年 1月12日 10時00分		
<残高照会> 01. 残高照会 02. 残高一覧表作成	<個別送金> 31. 個別送金実行	
<入出金明細照会> 11. 入出金明細照会 12. 外部データ入力 13. 入出金明細出力	<マスターメンテナンス> 41. 銀行マスターメンテナンス 42. 口座マスターメンテナンス 43. 共通マスターメンテナンス	
<預け替送金> 21. 現在(前日)残高照会 22. 預け替可能額リスト作成 23. 預け替補正 24. 預け替送金実行 25. 預け替結果一覧表作成	88. データバックアップ・リストアー 99. 終了	
処理番号を入力し〔改行〕キーを押して下さい。==> 【 】		

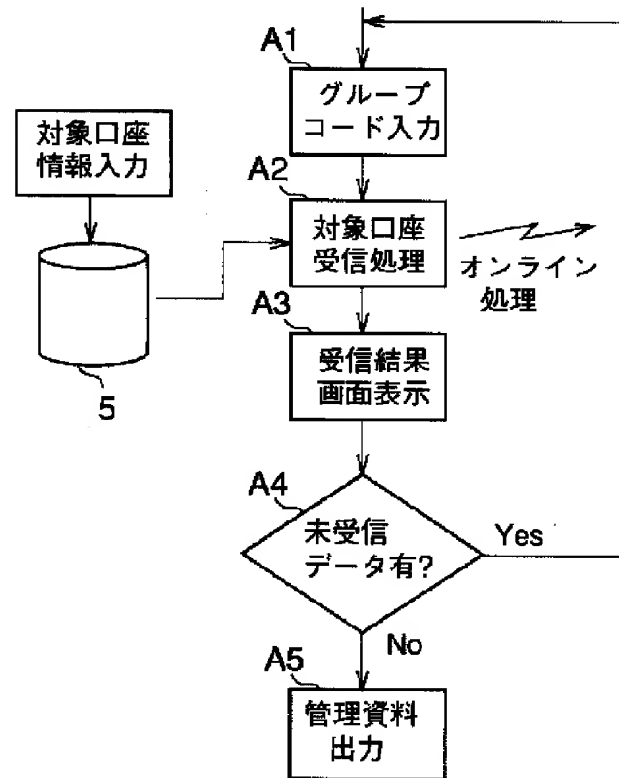
【図4】

資金集中系サービス

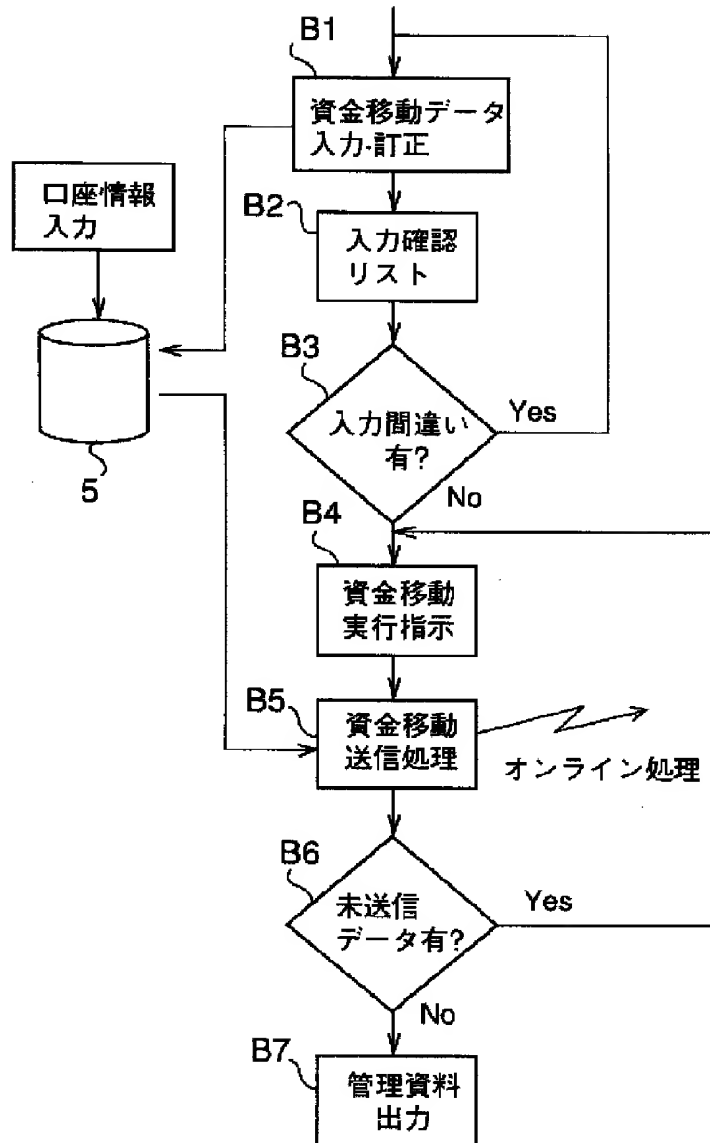
【図5】



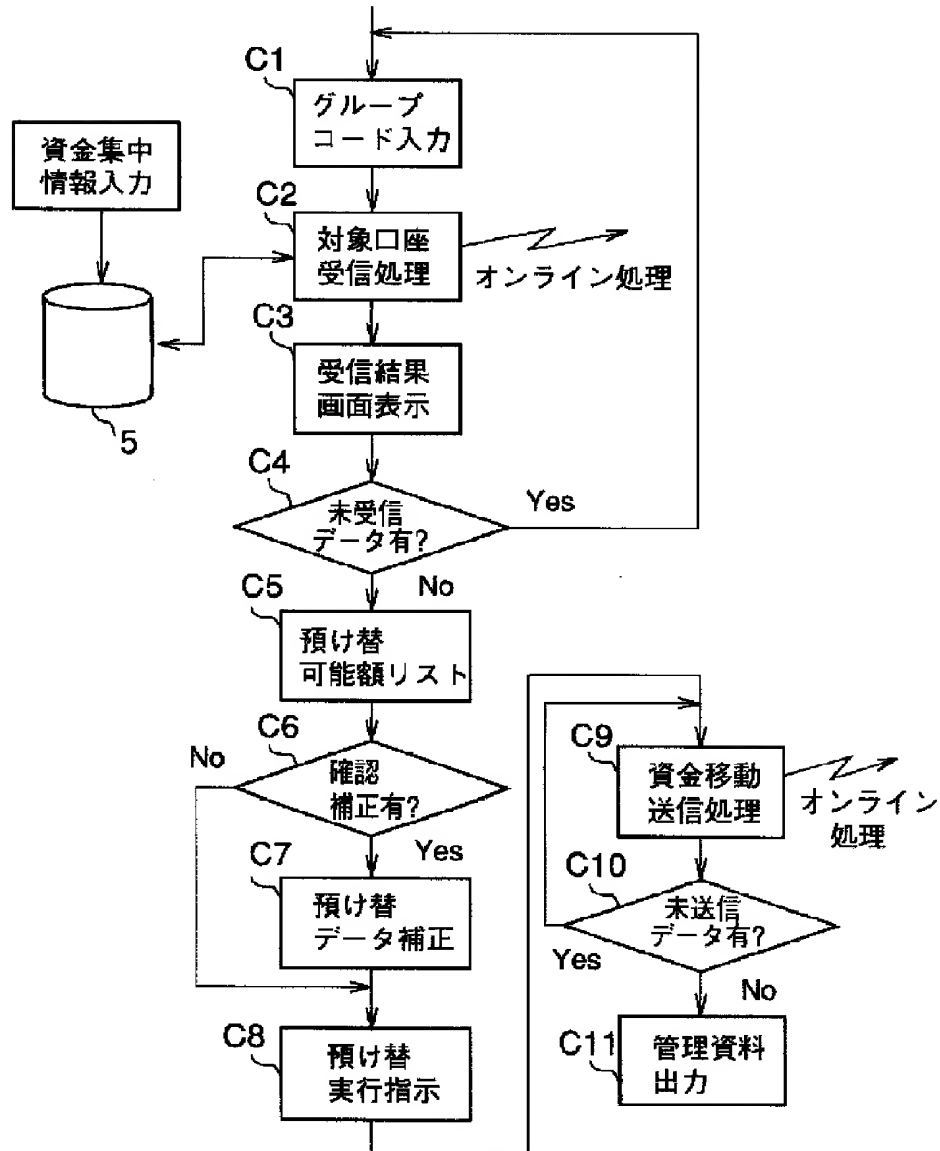
【図6】

照会系サービス

【図7】

資金移動系サービス

【図8】

資金集中処理



```
-----
資金集中システム                      【口座マスターメンテナンス】
-----
NNNNN          登録件数 ZZ9 件      9999年Z9月Z9日   Z9時Z9分

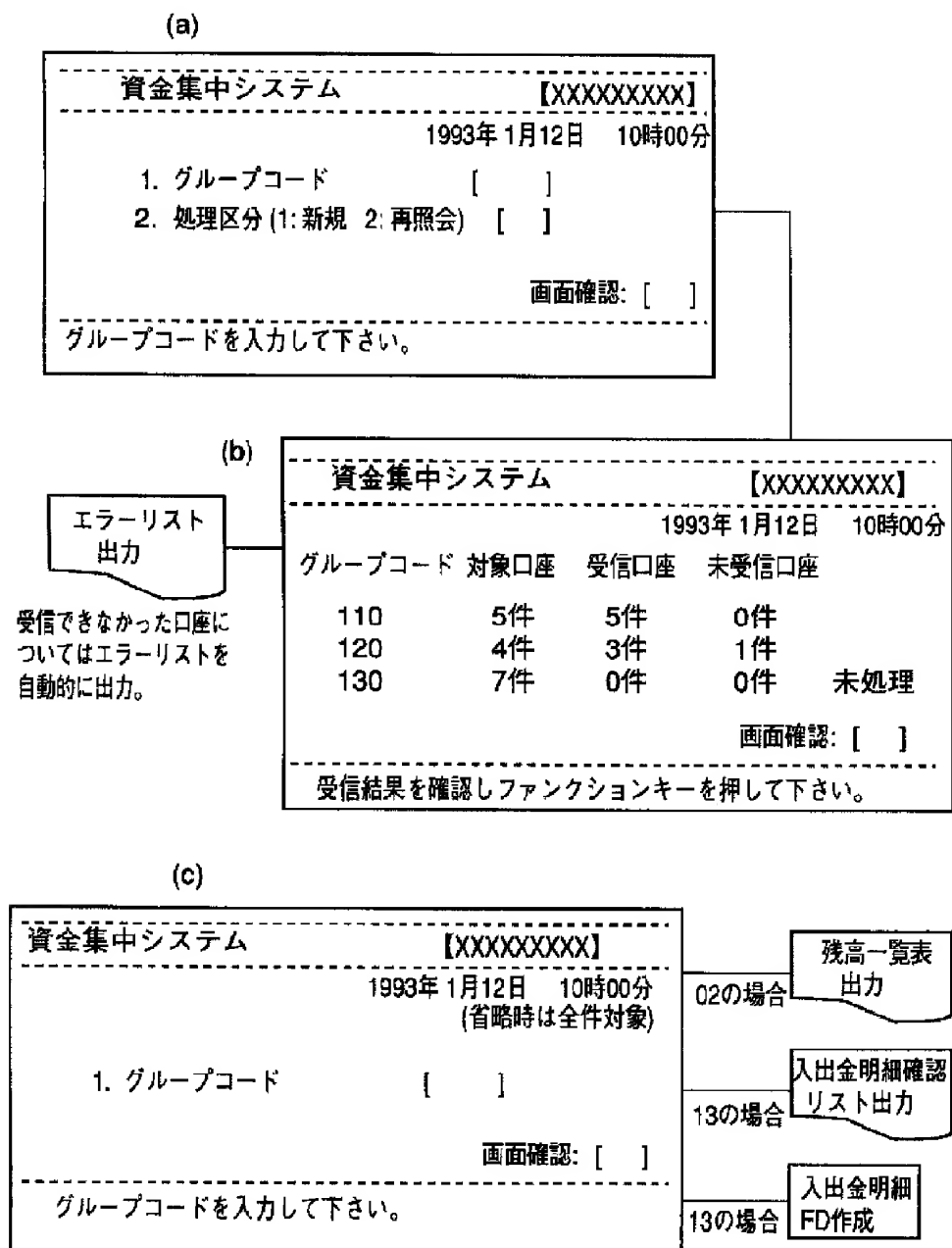
銀行コード           [9999]    XXXXXXXXXXXXXXXX
支店コード           [9999]    [XXXXXXXXXXXXXXXX]
預金種目コード       [9999]
口座番号             [99999999]  [NNNNNNNNNNN]
1. 口座種別         [9]      NN
<グループコード>
2. 残高照会         [999]
  預け替送金         [999]
  入出金明細         [999]
<加入者番号>
3. 照会用           [999999999999]  NNNNNNNNNNN
  移動用             [999999999999]
4. 照会用暗証番号   [9999]

5. 預け替送金区分   [9]
6. FD出力区分       [9]
7. 受取人番号       [999999999999]
                           [9999 - 999 - 99 - 999999999]
                           NNNNNNNNNNN
8. 固定残高         [ZZZ,ZZZ,ZZZ,ZZ9]

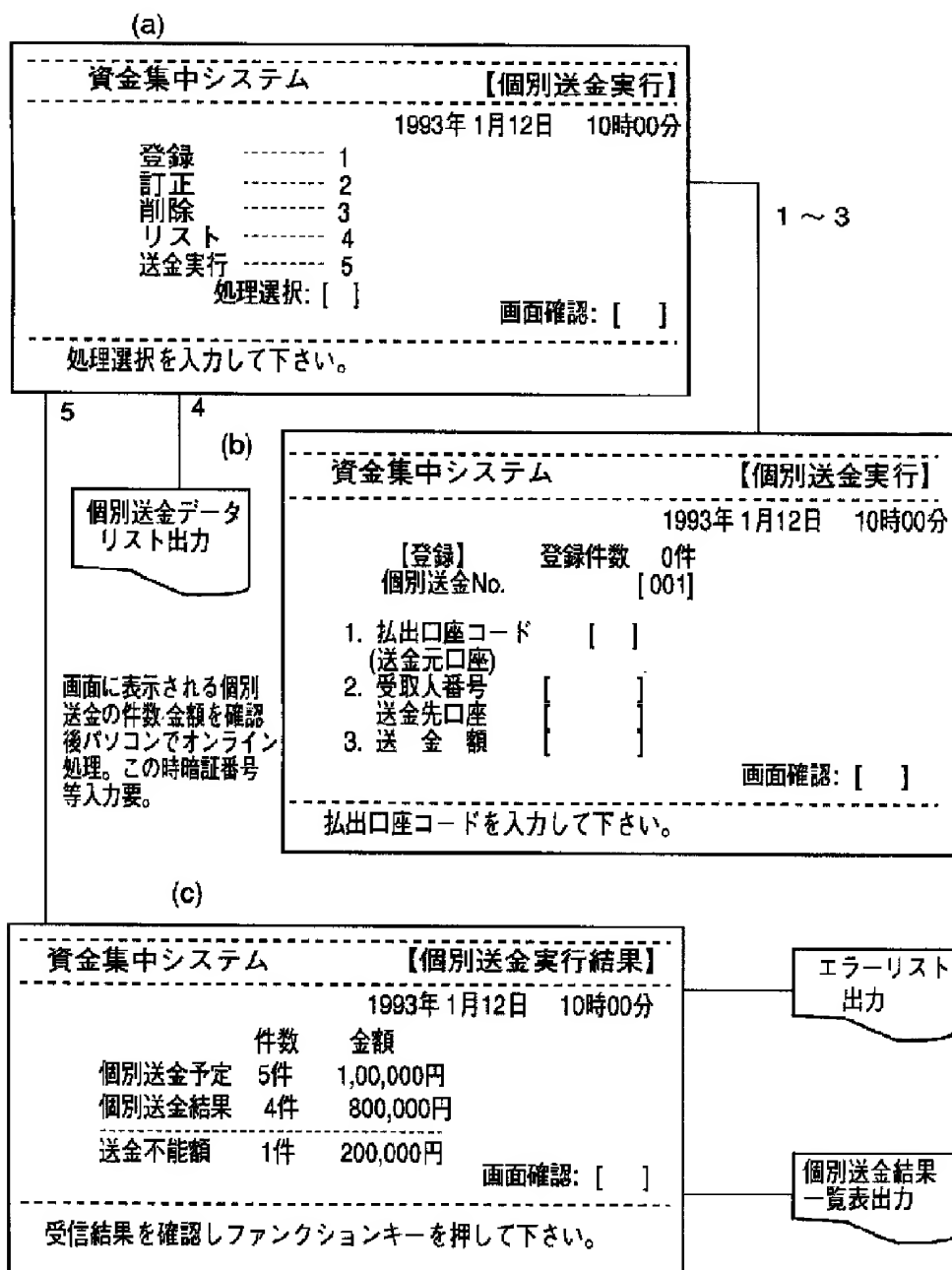
画面確認:           [9]
-----
NNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNN
```

[illegible]

【図12】

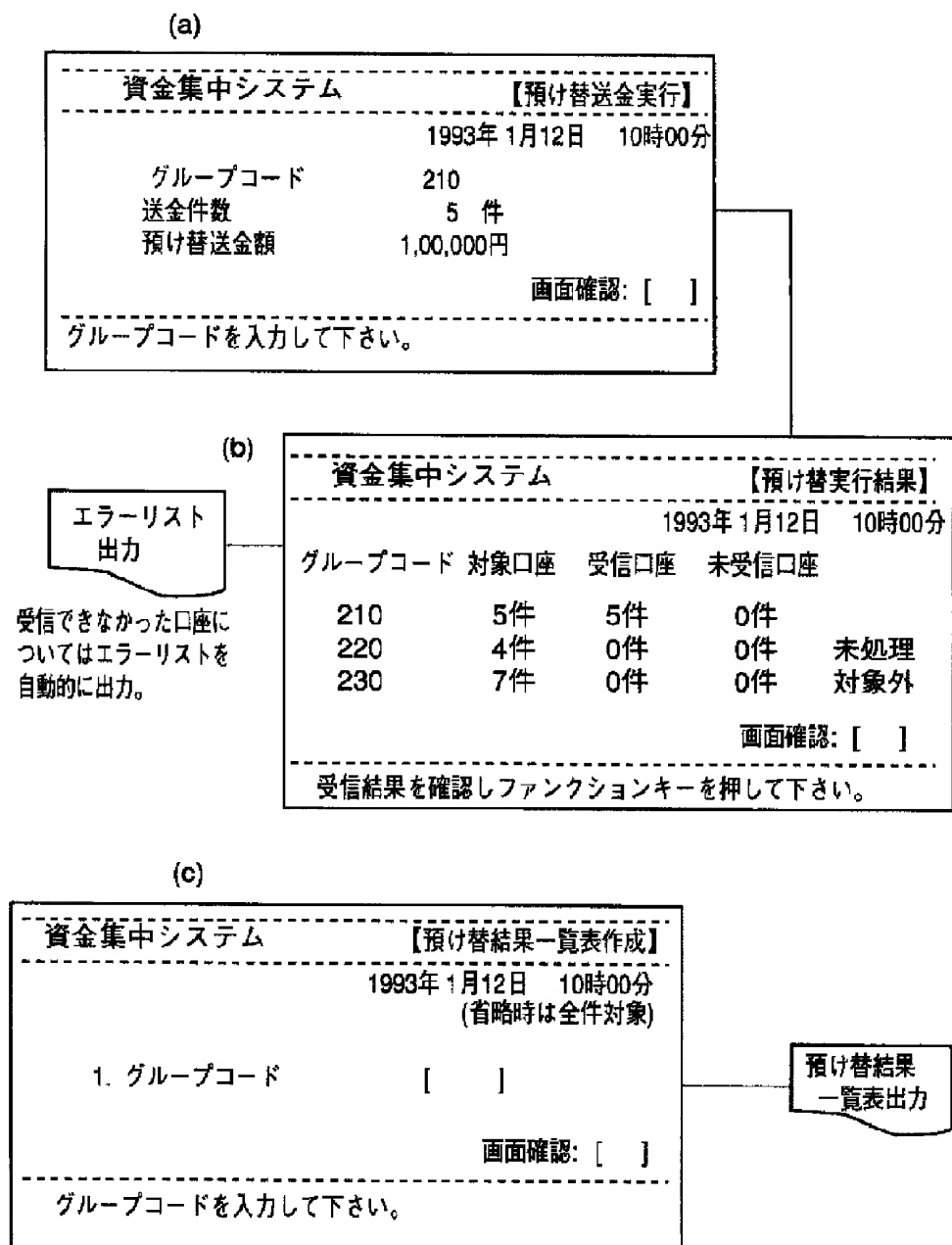


【図13】



[illegible]

【図16】



【図17】

(個 別 送 金) << 残 高 照 会 エ ラ ー リ ス ト >> =====				
No.	銀行コード	支店コード	預金種目	口座番号
1	0002	999	1	1234567

作成日: 1993年 1月12日 17時26分 1頁	
口 座 名 称	処理結果コード
NNNNNNNN	4063

【図18】

<< 残 高 一 覧 表 >>				
グループ コード	銀行 コード	支店 コード	口座 種別	口座番号
110	0001	792	当座	1000582
	0002	999	当座	1234567
	0003	999	当座	1

作成日: 1993年 1月12日			
17時55分			
1頁			
口 座 名 称	残高コード	日 付	残 高
NNNNNNNN	11	1月12日	100,000
NNNNNNNN	11	1月12日	100,000
NNNNNNNN	11	1月12日	100,000
	計	3件	300,000

【図19】

<< 個別送金データリスト >>			
個別送金 No.	送金元 口座	口座 名称	受取人 番号
1	0003-999-01-1	NNNNNNNN	001
2	0001-792- -1000582	NNNNNNNN	901

作成日: 1993年 1月12日 17時32分 1頁		
送金先口座	口座名称	送金額
0003-999-99-9999999	NNNNNNNN	100,000
0003-999-99-9999999	NNNNNNNN	100,000
		200,000



【図20】

<< 個別送金結果一覧表 >>			
個別送金 No.	送金元口座	口座 種別	口座名称
1	0003-999-01-1	当座	NNNNNNNN
2	0001-792- -1000582	当座	NNNNNNNN
			総計

作成日: 1993年 1月12日				
18時0分				
1頁				
金額	預け替日	送金先口座	口座 種別	口座名称
100,000	取消	0003-999-99-99999999	普通	NNNNNNNN
100,000	1月12日	0003-999-99-99999999	普通	NNNNNNNN
100,000				

【図21】

<< 預 け 替 可 能 額 リ ス ト >> =====				
グループコード. 210				
送金 No.	<----- 回 収 元 口 座 -----> 口座情報	口座 名 称	残高 コード	残高 払出可能額
1	0001-792- 1000582 当座	NNNNNNNN	11	100,000 100,000
2	0002-999-1 1234567 当座	NNNNNNNN	11	100,000 100,000
3	0003-999-01 1 当座	NNNNNNNN	11	100,000 70,000
グループ計				300,000 270,000
総 計				300,000 270,000

作成日: 1993年 1月12日 17時28分 1頁			
固 定 残 回収予定額 (補正後回収額)	<----- 回 収 先 口 座 -----> 口座情報          口座名称		
10,000	0003-999-99	NNNNNNNN	
90,000 (            )	9999999 普通		
100,000	0003-999-99	NNNNNNNN	
0 (        50,000 )	9999999 普通		
100,000	0003-999-99	NNNNNNNN	
0 (        70,000 )	9999999 普通		
210,000			
90,000 (    210,000 )			
210,000			
90,000 (    210,000 )			

【図22】

<< 預 け 替 エ ラ ー リ ス ト >> =====			
No.	銀行コード	支店コード	預金種目
ZZZ9	9999	9999	99
ZZZ9	9999	9999	99
ZZZ9	9999	9999	99
ZZZ9	9999	9999	99
ZZZ9	9999	9999	99
⋮			

			作成日: ZZZ9年Z9月Z9日
			Z9時Z9分
			ZZ9頁
口座番号	口座名称	処理結果コード	
99999999	NNNNNNNNNN	XXXX	
99999999	NNNNNNNNNN	XXXX	
99999999	NNNNNNNNNN	XXXX	
99999999	NNNNNNNNNN	XXXX	
99999999	NNNNNNNNNN	XXXX	
⋮			

【図23】

<< 預け替 結果一覧表 >> =====					
グループコード. 210					
送金 No.	回収元口座	口座 種別	口座名称	金額	
1	0001-792- -1000582	当座	NNNNNNNN	90,000	
2	0002-999- 1 -1234567	当座	NNNNNNNN	50,000	
3	0003-999-01-1	当座	NNNNNNNN	70,000	
グループ計				160,000	
総 計				160,000	

作成日: 1993年 1月12日

17時34分

1頁

預け替日	回収先口座	口座 種別	口座名称
1月12日	0003-999-99-99999999	普通	NNNNNNNN
取消	0003-999-99-99999999	普通	NNNNNNNN
翌営業日	0003-999-99-99999999	普通	NNNNNNNN

【図24】

## ◎サービスコード一覧表

取引	サービスコード	取引種別	備考
残高照会	1000	当日前日前月末残高照会	
	1100	当日残高照会	
	1200	前日残高照会	
	1300	前月末残高照会	
取引照会	2000	全取引照会	振込,取立,自動引落しの全照会
	2100	振込照会	
	2200	取立照会	
	2300	自動引落とし照会	
	2400	入出金明細照会	
	2500	入金明細照会	
	2600	出金明細照会	
	2700	入出金明細照会	日付指定有り
	2800	入金明細照会	日付指定有り
	2900	出金明細照会	日付指定有り
取引再照会	3100	当日分振込再照会	
	3200	当日分取立再照会	
	3300	当日分自動引落とし再照会	
	3400	入出金明細再照会	
	3500	入金明細再照会	
	3600	出金明細再照会	
	3700	入出金明細再照会	日付指定有り
	3800	入金明細再照会	日付指定有り
	3900	出金明細再照会	日付指定有り

【図25】

取引	サービスコード	取引種別	備考
取引再照会	4100	前日分振込再照会	
	4200	前日分取立再照会	
	4300	前日分自動引落とし再照会	
	5100	前々日分振込再照会	
	5200	前々日分取立再照会	
	5300	前々日分自動引落とし再照会	
情報案内	6000	情報案内照会	特定加入者,指定コード=2桁
	6100	情報案内照会	不特定加入者,指定コード=2桁
	6200	情報案内照会	特定加入者,指定コード=6桁
	6300	情報案内照会	不特定加入者,指定コード=6桁
資金移動取引	7100	振込振替(登録)	
	7300	振込振替照会	
	7400	振込振替(通知入金)	
	7500	振込振替(通知支払)	
	7600	振込振替(登録)	日付指定予約
	7700	振込振替(通知入金)	日付指定予約
	7800	振込振替(通知支払)	日付指定予約
	7900	振込振替予約取消依頼	日付指定予約